池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2005年度

2006年3月

池田市教育委員会

序　　文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展した。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成１８年３月

池田市教育委員会

教育長　村　田　　陽

例　　言

1．本書は、池田市教育委員会が平成17年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50％として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2．調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。

3．本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。

4．本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

5．調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目　　次

Ⅰ　歴史的環境…… 1
Ⅱ　池田城跡調査…… 5
　　池田城跡第５１次調査…… 6
　　池田城跡第５２次調査…… 7
Ⅲ　禅城寺遺跡調査…… 9
　　禅城寺遺跡第７次調査…… １０
　　禅城寺遺跡第８次調査…… １１
Ⅳ　木部遺跡第１次調査…… １３
Ⅴ　神田北遺跡第１４次調査…… １７
Ⅵ　宮の前遺跡第４２次調査…… １９

図　　版

図版１　１）池田城跡第５１次調査　第１トレンチ全景（南西から）
　　２）池田城跡第５１次調査　第２トレンチ全景（西から）
図版２　１）池田城跡第５２次調査　トレンチ全景（北から）
　　２）禅城寺遺跡第７次調査　第１トレンチ全景（北から）
図版３　１）禅城寺遺跡第７次調査　第２トレンチ全景（北東から）
　　２）禅城寺遺跡第８次調査　トレンチ全景（北から）
図版４　１）禅城寺遺跡第８次調査　竪穴住居跡（東から）
　　２）禅城寺遺跡第８次調査　竪穴住居跡（東から）
図版５　１）木部遺跡第１次調査　第１トレンチ全景（北西から）
　　２）木部遺跡第１次調査　第２トレンチ全景（北西から）
図版６　１）木部遺跡第１次調査　第３トレンチ全景（東から）
　　２）神田北遺跡第１４次調査　トレンチ全景（北から）
図版７　１）宮の前遺跡第４２次調査　第１トレンチ全景（南西から）
　　２）宮の前遺跡第４２次調査　第２トレンチ全景（南東から）
　　３）宮の前遺跡第４２次調査　第３トレンチ全景（南東から）
図版８　１）禅城寺遺跡第７次調査　出土遺物
　　２）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物１　　３）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物１　裏
　　４）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物２　　５）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物２　裏
　　６）木部遺跡第１次調査　出土遺物１　　７）木部遺跡第１次調査　出土遺物１　裏
図版９　１）木部遺跡第１次調査　出土遺物２

2）木部遺跡第１次調査　出土遺物３　　3）木部遺跡第１次調査　出土遺物３　裏
4）木部遺跡第１次調査　出土遺物４　　5）木部遺跡第１次調査　出土遺物４　裏
6）木部遺跡第１次調査　出土遺物５　　7）木部遺跡第１次調査　出土遺物５　裏
図版１０　1）木部遺跡第１次調査　出土遺物６　　2）木部遺跡第１次調査　出土遺物６　裏
3）木部遺跡第１次調査　出土遺物７　　4）木部遺跡第１次調査　出土遺物７　裏
5）木部遺跡第１次調査　出土遺物８　　6）木部遺跡第１次調査　出土遺物８　裏
図版１１　1）神田北遺跡第１４次調査　出土遺物　　2）神田北遺跡第１４次調査　出土遺物　裏
3）宮の前遺跡第４２次調査　出土遺物　　4）宮の前遺跡第４２次調査　出土遺物　裏

挿　図　目　次

Ⅰ　歴史的環境
第１図　神田北遺跡出土石器…… 1
第２図　遺跡分布図…… 2
第３図　豊島南遺跡方形周溝墓…… 3
第４図　娯三堂古墳…… 3
第５図　古江古墳調査状況…… 3
第６図　豊島南遺跡焼失住居跡…… 4
第７図　池田城跡掘立柱建物跡…… 4
Ⅱ　池田城跡調査
第８図　池田城跡主郭部…… 5
第９図　調査地位置図…… 5
池田城跡第51次発掘調査
第10図　トレンチ位置図 …… 6
第11図　第１トレンチ東壁断面図 …… 6
第12図　第２トレンチ東壁断面図 …… 7
池田城跡第52次試掘調査
第13図　トレンチ位置図 …… 7
第14図　トレンチ南壁断面図 …… 7
第15図　池田城跡縄張り図 …… 8
Ⅲ　禅城寺遺跡調査
第16図　禅城寺遺跡第２次調査 …… 9
第17図　調査地位置図 …… 9
禅城寺遺跡第７次発掘調査
第18図　トレンチ位置図 …… 10
第19図　第１トレンチ断面図 …… 10

第20図　第２トレンチ断面図 …… 10
第21図　出土遺物実測図 …… 11
禅城寺遺跡第８次発掘調査
第22図　トレンチ位置図 …… 11
第23図　トレンチ平・断面図 …… 11
第24図　出土遺物実測図 …… 12
第25図　出土遺物実測図 …… 12
Ⅳ　木部遺跡調査
木部遺跡第１次発掘調査
第26図　木部遺跡周辺 …… 13
第27図　調査地位置図 …… 13
第28図　トレンチ位置図 …… 14
第29図　第１トレンチ平・断面図 …… 14
第30図　第２トレンチ平・断面図 …… 14
第31図　第３トレンチ平・断面図 …… 15
第32図　石器実測図 …… 15
第33図　出土遺物実測図 …… 15
第34図　細川荘大絵図（木部付近） …… 16
Ⅴ　神田北遺跡調査
第35図　神田北遺跡第11次調査 …… 17
第36図　調査地位置図 …… 17
神田北遺跡第14次発掘調査
第37図　トレンチ位置図 …… 18
第38図　トレンチ南東壁断面図 …… 18
第39図　出土遺物実測図 …… 18
Ⅵ　宮の前遺跡調査
第40図　宮の前遺跡第26次調査 …… 19
第41図　調査地位置図 …… 19
宮の前遺跡第42次発掘調査
第42図　トレンチ位置図 …… 20
第43図　第１トレンチ東壁断面図 …… 20
第44図　第２トレンチ東壁断面図 …… 20
第45図　第３トレンチ東壁断面図 …… 20
第46図　出土遺物実測図 …… 20

Ⅰ　歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1㎞、南北9.2㎞の南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50ｍの緩やかな五月丘丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

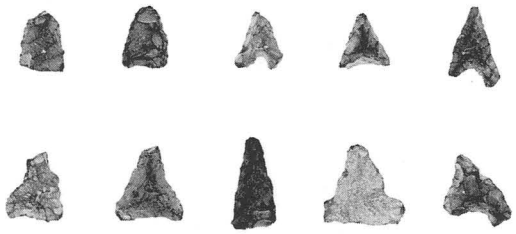
旧石器時代に関する遺跡は少ない。旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50ｍの五月山丘陵の西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大阪府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器･平成元･７年度の豊中市教育委員会による蛍池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片１点が採取されている。神田北遺跡では、平成９年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴うの調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

縄文時代に関する遺跡も少なく、市域北部遺物が確認されている遺跡は、古江遺跡から石匙１点採取されているのみである。また、市内中部では、伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡でサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畑ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

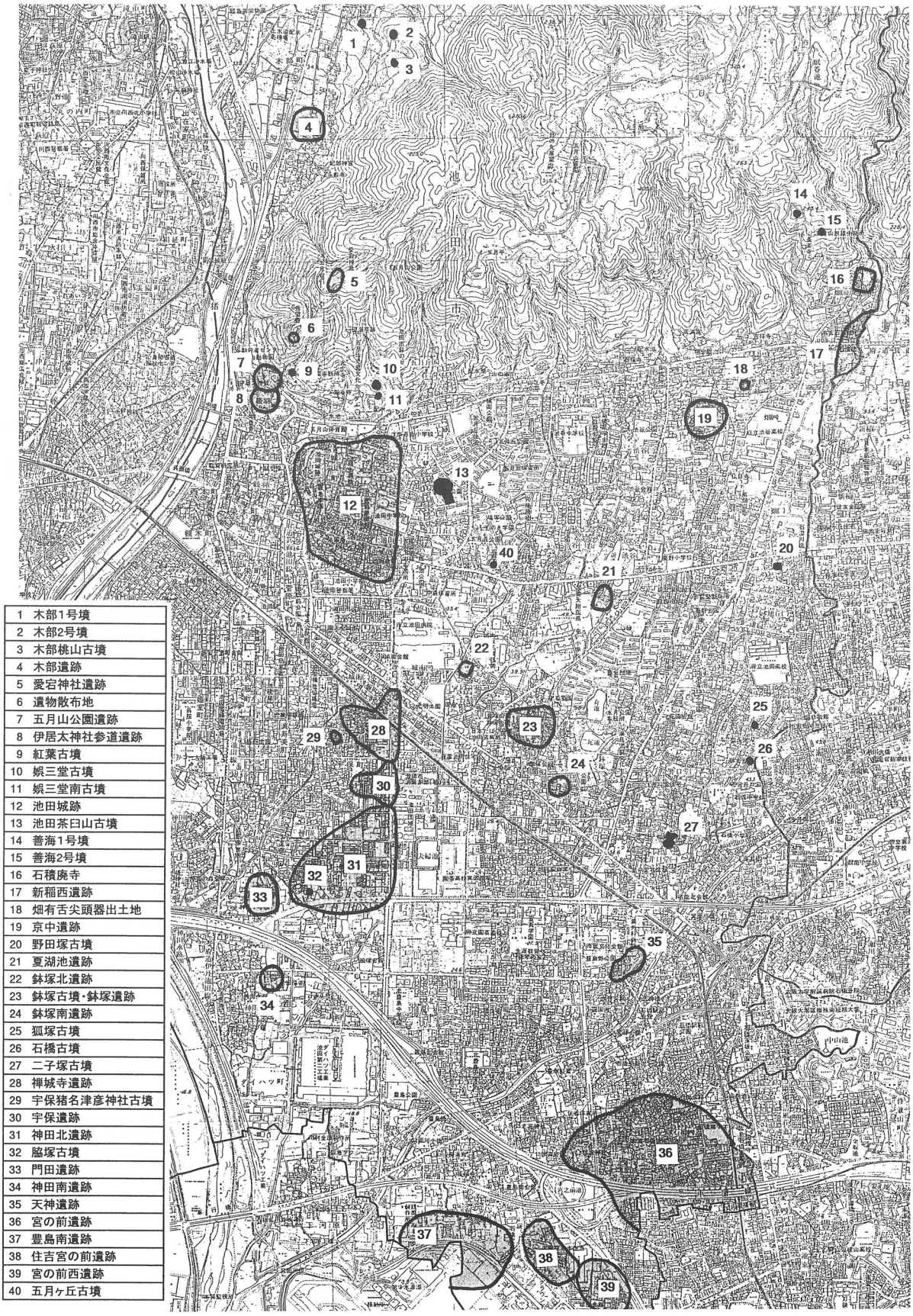
一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。



第１図　神田北遺跡出土石器

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工



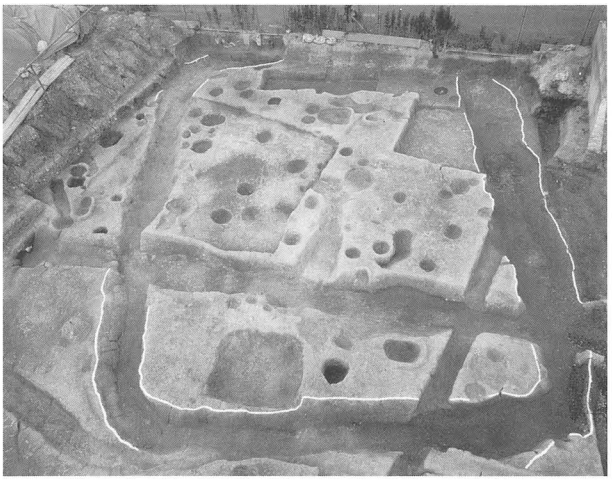
1	木部1号墳
2	木部2号墳
3	木部桃山古墳
4	木部遺跡
5	愛宕神社遺跡
6	遺物散布地
7	五月山公園遺跡
8	伊居太神社参道遺跡
9	紅葉古墳
10	娯三堂古墳
11	娯三堂南古墳
12	池田城跡
13	池田茶臼山古墳
14	善海1号墳
15	善海2号墳
16	石積廃寺
17	新稲西遺跡
18	畑有舌尖頭器出土地
19	京中遺跡
20	野田塚古墳
21	夏湖池遺跡
22	鉢塚北遺跡
23	鉢塚古墳・鉢塚遺跡
24	鉢塚南遺跡
25	狐塚古墳
26	石橋古墳
27	二子塚古墳
28	禅城寺遺跡
29	宇保猪名津彦神社古墳
30	宇保遺跡
31	神田北遺跡
32	脇塚古墳
33	門田遺跡
34	神田南遺跡
35	天神遺跡
36	宮の前遺跡
37	豊島南遺跡
38	住吉宮の前遺跡
39	宮の前西遺跡
40	五月ヶ丘古墳

第２図　遺跡分布図

事中に発見された遺跡で、その時に弥生時代前期から後期の土器が出土している。

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約１㎞に位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成３年の調査において、ベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。



第３図　豊島南遺跡方形周溝墓

古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶臼山古墳と娯三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62ｍの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娯三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500ｍ離れた五月山中腹に位置する径27ｍの円墳で、明治時代に石室内から画文帯神獣鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土槨が存在することが確認されている。

第４図　娯三堂古墳

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

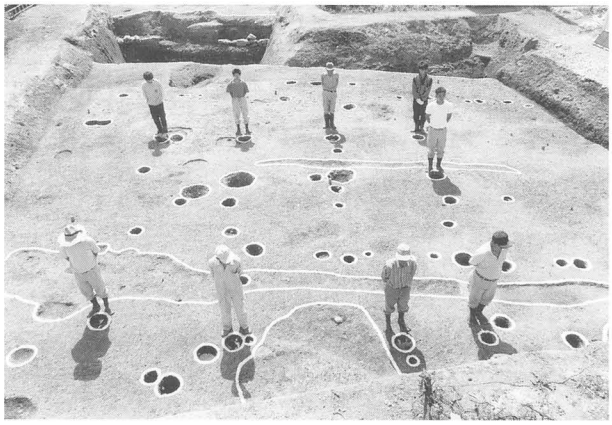
古墳時代後期では古江古墳、善海１・２号墳、木部１・２号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは２～３基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成１７年に電波塔工事によって破壊され、その際の事後調査によって、須恵器・鉄刀が出土した。

第５図　古江古墳調査状況

上記の小古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると、少しではあるが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居、溝が検出されている。

第６図　豊島南遺跡消失住居跡



第７図　池田城跡掘立柱建物跡

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物・溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物等が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる呉庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成４年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、磚列建物跡等を確認している。

参考文献

『原始・古代の池田』　池田市立池田中学校地歴部　1985年

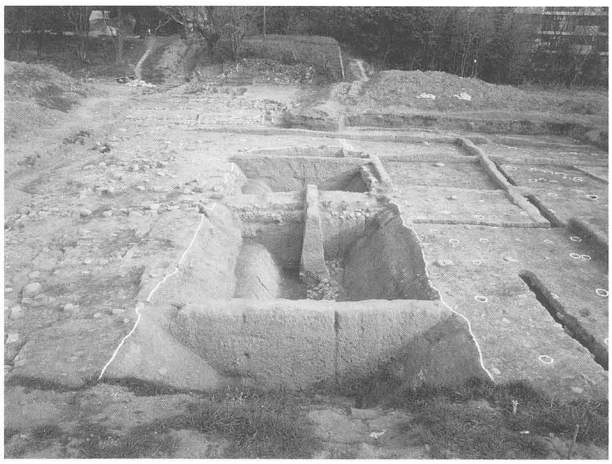
『新修　池田市史』　第１巻　池田市1997年

『禅城寺・宇保・神田北遺跡』大阪府教育委員会 2002年

Ⅱ　池田城跡調査

はじめに

池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山塊から張り出した標高50ｍを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るにようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。



第８図　池田城跡主郭部

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に一部の主郭が発掘調査され、建物に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～４年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う

第９図　調査地位置図

建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる礎列建物等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100ｍの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明している。また、池田城以前の時代についても、昭和60年以降の大阪府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成３年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。

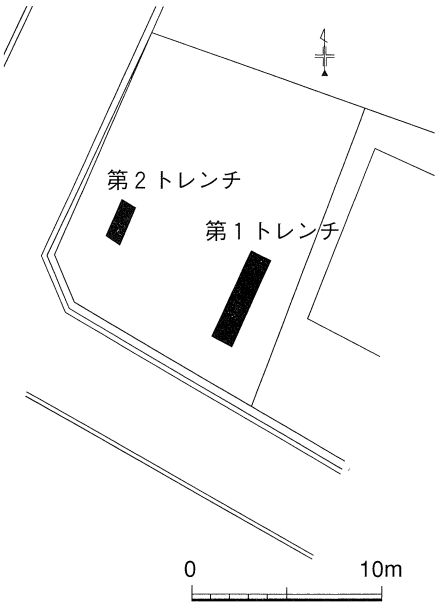
池田城跡第５１次発掘調査

調査の概要

池田市建石町１９７８－６において、個人住宅建築に先立ち実施した調査である。

調査地は主郭部より南に位置し、池田城が立地する五月山から張り出した台地の中央部にあたる。調査地西側約２０ｍの場所で大阪府教育委員会が調査を実施し、堀や大手門が検出し、その後の調査で、調査地の南側は東西に走る堀があることがわかっている。

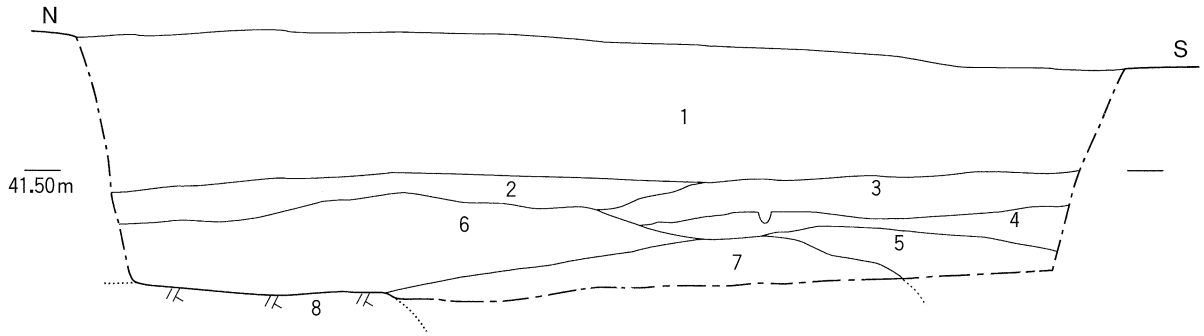
調査は堀の確認を主眼におき、調査地南側に２本のトレンチ（東側－第１トレンチ、西側－第２トレンチ）を設定し実施した。調査面積は両トレンチあわせて６㎡である。



第10図　トレンチ位置図

第１トレンチ

基本層序は第１層が表土、及び、盛土、第２層が黒褐色シルト、第３層が暗褐色土、第４層が黄褐色砂質土の地山である。



1　盛土　　2　10YR2/2.5黒褐色砂質土
3　5YR2/1.5黒褐色シルト　　4　7.5YR3/3暗褐色シルト
5　10YR3/4暗褐色シルト　　6　10YR3/4暗褐色砂質土
7　7.5YR3/3暗褐色シルトφ5～10㎝の礫多いφ1～2㎝の細礫も多い
8　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土

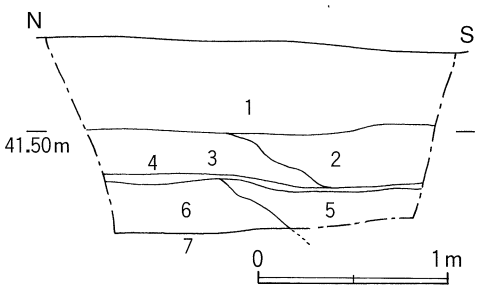
第11図　第１トレンチ東壁断面図

トレンチ北側から南へ向かう堀を検出するが、基礎の掘削深度の関係から堀埋土の掘削は行わなかった。出土遺物はなかった。

第２トレンチ

基本層序は第１層が表土、及び、盛土、第２層が褐色シルト、第３層が黄褐色シルト、第４層が褐色シルト、第５層が暗褐色シルトの地山で、第1トレンチとは若干異なる。

トレンチ中央から南へ向かう堀を検出するが、基礎の掘削深度の関係から堀埋土の掘削は行わなかった。出土遺物は認められなかった。



1　盛土　　2　10YR2/2.5黒褐色砂質土
3　10YR4/4褐色シルト　　4　2.5YR5/6黄褐色シルト
5　10YR3/3暗褐色砂質土φ3～5cmの石含む
6　10YR4/4褐色シルトφ3～5cmの石多い
7　10YR3/3.5暗褐色シルト

第12図　第２トレンチ東壁断面図

池田城跡第５２次試掘調査

調査の概要

池田市建石町２０１２－２他において、建売住宅建築に先立ち実施した試掘調査である。

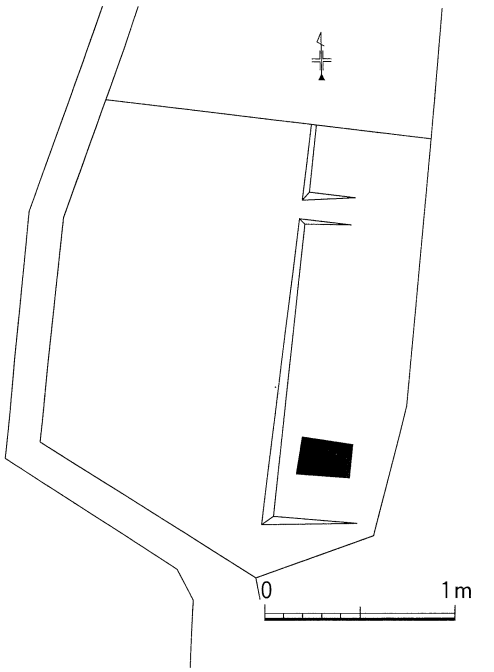
調査地は主郭部より南東に位置し、池田城跡の南北に走る外堀と考えられる場所である。調査地の西側は約２ｍほど上がる段となっており、調査は西側段上にトレンチを設定し、堀の把握に努めた。調査面積は６㎡である。

基本層序は第１層が表土、及び、盛土、第２層が暗赤褐色シルト、第３層が褐色シルトの地山である。調査地は近現代の攪乱が多くある。

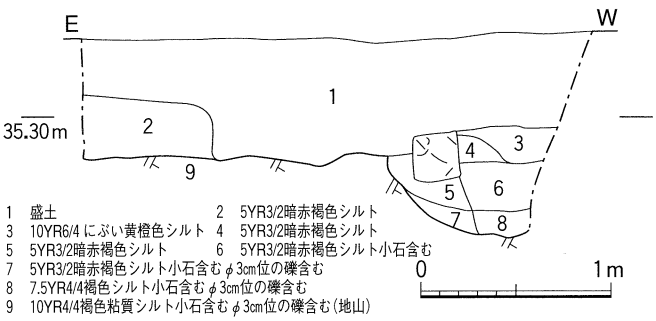
調査の結果、堀の端と考えられる落ち込みと平坦地を検出する。調査トレンチの東側は調査地より、約１ｍほど高くなっており、平坦地は堀の中間に設けられた犬走りと考えられる。その調査結果をもとに、現状地形から考察すると、犬走りは調査トレンチより約５０ｍ北に位置する能勢街道と堀が交差する場所から調査トレンチ南すぐの場所まで続いていたと考えられる。

出土遺物は認められなかった。

池田城跡第５１次調査・５２次調査ともに堀跡を確認した。今までの調査結果

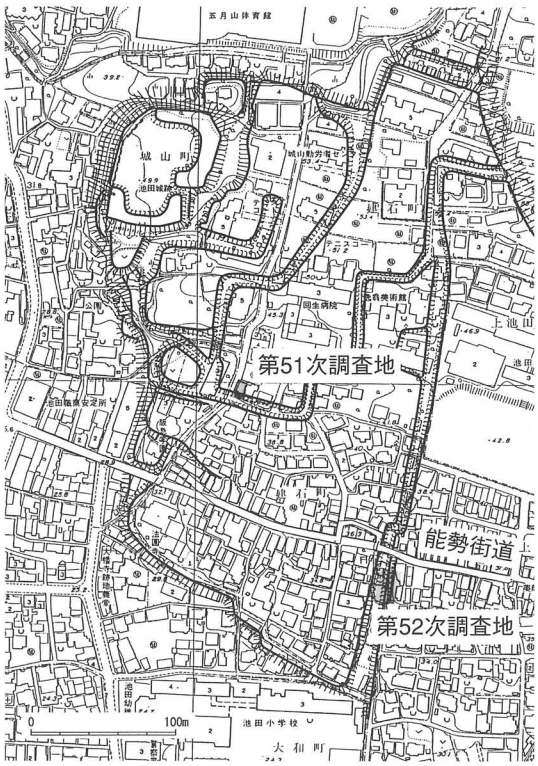


第13図　トレンチ位置図



1　盛土　　2　5YR3/2暗赤褐色シルト
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　4　5YR3/2暗赤褐色シルト
5　5YR3/2暗赤褐色シルト　　6　5YR3/2暗赤褐色シルト小石含む
7　5YR3/2暗赤褐色シルト小石含むφ3cm位の礫含む
8　7.5YR4/4褐色シルト小石含むφ3cm位の礫含む
9　10YR4/4褐色粘質シルト小石含むφ3cm位の礫含む（地山）

第14図　トレンチ南壁断面図



第15図　池田城跡縄張り図

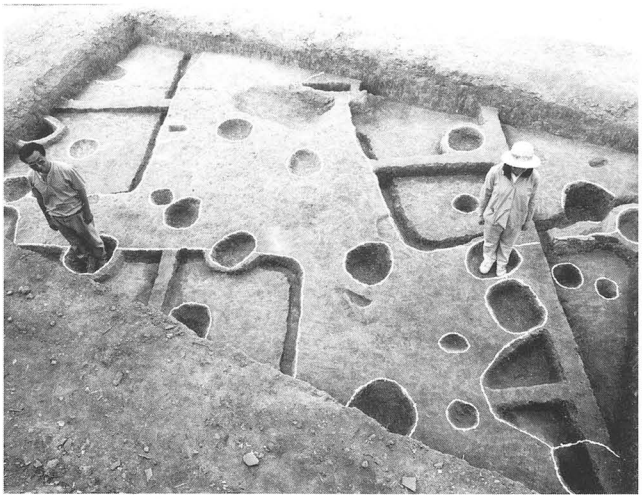
とあわせて、堀を中心とする池田城の縄張りは、おおよそ把握できるようになった。

Ⅲ　禅城寺遺跡調査

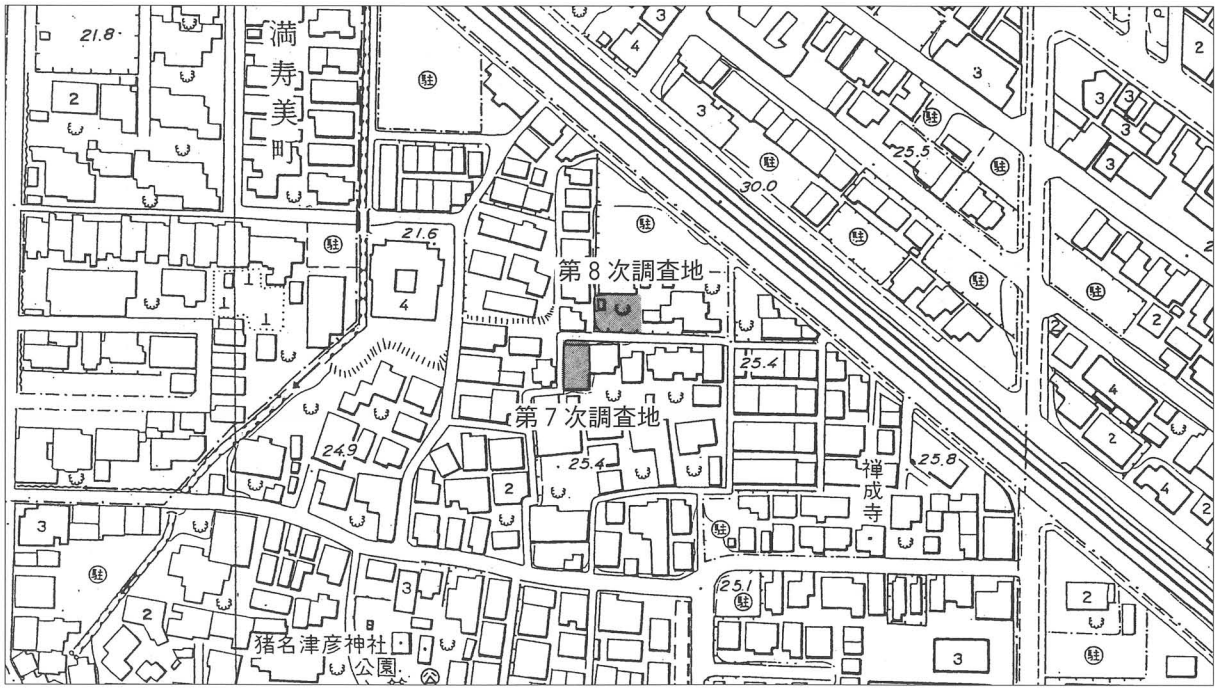
はじめに

禅城寺遺跡が位置する宇保町一帯は、１１世紀頃、土師氏によって開発されたと考えられる呉庭荘と比定される。呉庭荘は平安時代後期の鳥羽院政期には皇室領となり、鎌倉時代に入ると皇室領からは離れ、農業信仰の牛頭天王を祭神とする呉庭総社を創設し、社領荘園として直接支配が図られた。善城寺も呉庭総社とともに氏寺として創建された。禅城寺は坂上氏系譜にみられる善城寺と考えられるが、詳しいことはわかっていない。

禅城寺遺跡の発見は、昭和６２年マンション工事中に中世の瓦が発見されたことからはじまるが、その後、調査の件数が少なく不明な点が多かった。しかし、平成９年、遺跡の東側に位置する府道拡幅工事に伴う大阪府教育委員会の試掘調査の結果、中世遺物が発見されたことにより、遺跡範囲の拡大が行われた。また、平成１０年に実施した池田市教育委員会による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の結果、飛鳥時代の竪穴住居跡４基、奈良時代の掘立柱建物跡１基、出土遺物についても弥生時代後期の土器を確認する。こうした成果から、禅城寺遺跡は宇保町・城南２丁目一帯にひろがる弥生時代後期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。



第16図　禅城寺遺跡第２次調査



第17図　調査地位置図

禅城寺遺跡第７次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市宇保町２６７において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。東側の第1トレンチと西側の第２トレンチをあわせて、調査面積は６㎡である。

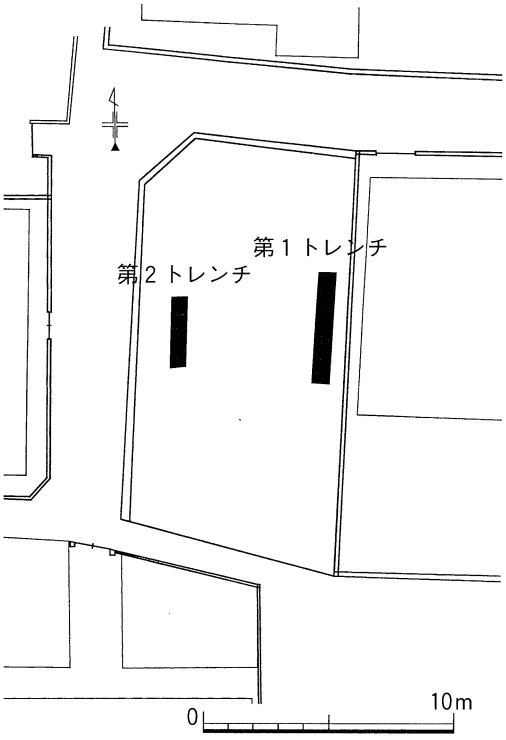
調査地は禅城寺遺跡がひろがる台地上の北西端部に位置し、飛鳥時代の竪穴住居跡等が見つかった第２次調査地に隣接する場所でもある。

両トレンチとも基本層序は、第１層が盛土、第２層が黒褐色シルト、第３層が黄色褐シルトの地山である。

第１トレンチ

検出遺構は、第２層・第３層（地山）上より、柱穴、溝等を検出した。掘立柱建物の復元には至らなかった。

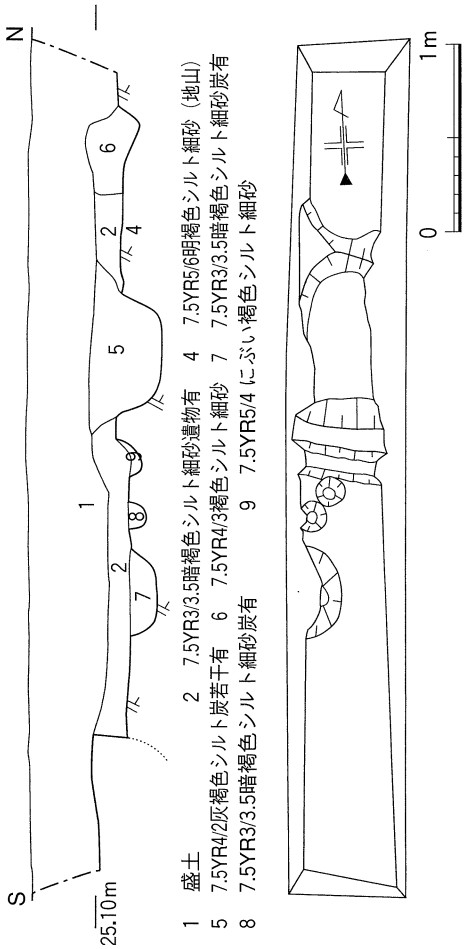
出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器等であるが、ほとんどが小片のため、実測はできるものはなかった。



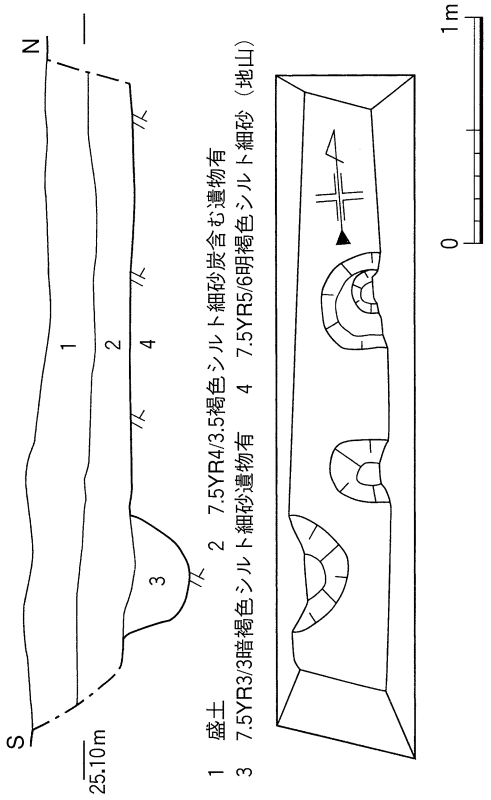
第18図　トレンチ位置図

第２トレンチ

検出遺構は、第３層（地山）上より柱穴３基検出した。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器等であるが、ほとんどが小片のため、実測で



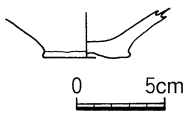
第19図　第１トレンチ平・断面図



第20図　第２トレンチ平・断面図

きるものは、第２トレンチ柱穴１より弥生土器の底部１点のみであった。

今回の調査では、第２次調査で検出した竪穴住居跡のひろがりを確認することができなかった。



第21図　出土遺物実測図

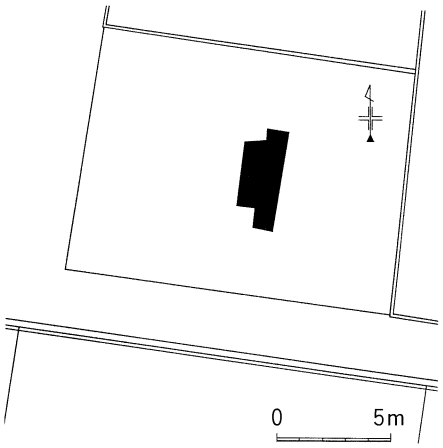
禅城寺遺跡第８次発掘調査

調査の概要

調査は池田市宇保町２７４番７において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は６㎡である。

調査地は前述の第７次調査と同様、禅城寺遺跡がひろがる台地上の北西端部に位置し、飛鳥時代の竪穴住居等が見つかった第２次調査地に隣接する場所でもある。

基本層序は、第１層が盛土、第２層が灰黄褐色シルト、第３層が明黄褐色粘質土の地山である。検出遺構は、竪穴住居跡の一部、溝、柱穴等である。

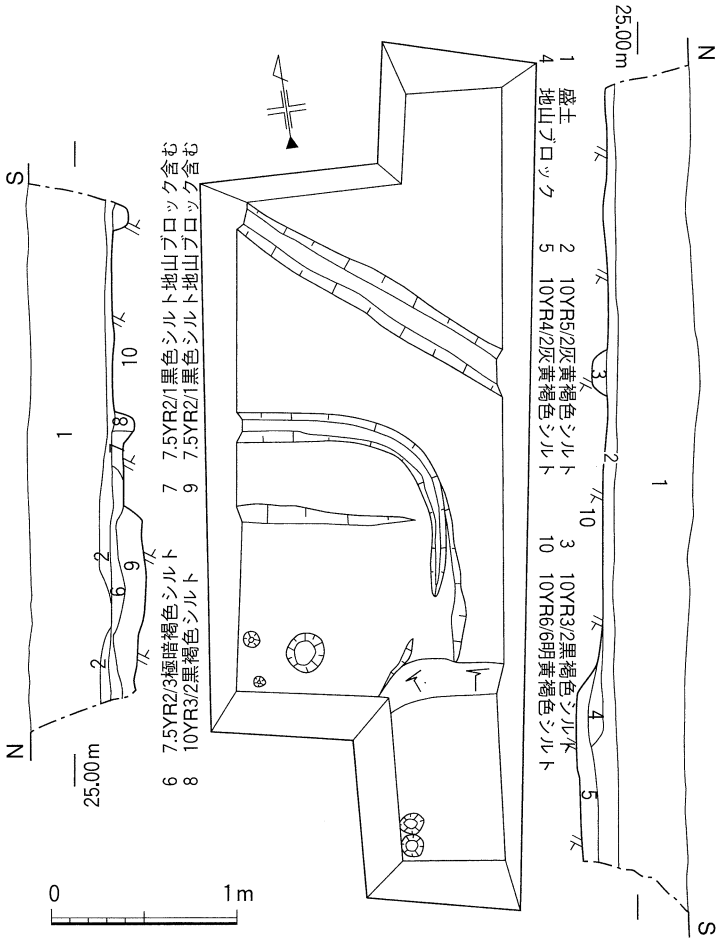


第22図　トレンチ位置図

竪穴住居跡は調査地中央より検出した。西側は調査区外の広がり、南側は後世の削平によりなくなるため、規模等は不明である。住居内北壁及び北西角沿いには溝があるが、西側はなくなる。また、北壁沿いは幅１５～２０cmで地山を削り残した高まりがあり、北側にベッド状の高まりが設置されていた可能性がある。上の埋土中より須恵器１片、金属片、土師器の小片が出土したが、実測できるものは須恵器、金属片のみであった。須恵器は大型の杯の口縁と考えられるが、小片のため、はっきりとしない。金属片は刀子と思われ、木片が付着している。

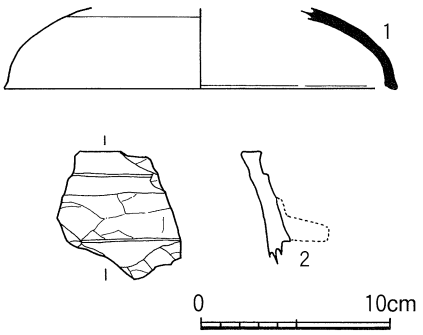
竪穴住居跡は出土遺物より古墳時代後期と考えられる。

溝は調査地北側より検出した。幅20cm、深さ15cmで、埋土からは瓦質の羽釜が出土した。羽釜は口

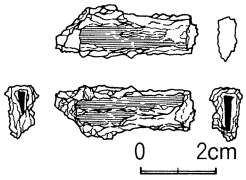


第23図　トレンチ平・断面図

縁部から外面は段を有する。顎部は欠損する。溝の年代は瓦質の羽釜から中世後半ごろと考えられる。



第24図　出土遺物実測図



第25図　出土遺物実測図

Ⅴ．木部遺跡第１次調査

はじめに

木部遺跡は池田市木部町、中川原町にひろがる弥生時代から中世にいたる土器が出土した遺跡である。五月山北麓の標高約３３ｍを測る平地上にあり、西側には、猪名川と合流する余野川が流れ、少しであるが、沖積低地が広がっている。

当遺跡は昭和５１年に水路工事の際、池田中学校の地歴部員によって発見された。その報告によると、古墳時代の包含層と弥生時代の包含層があり、出土遺物は前期から後期に至る弥生土器、須恵器の高杯・壷・甕、瓦器、備前など広範囲に及んでいる。

池田市内で弥生時代前期～後期に及ぶ遺跡は、木部遺跡だけあり、また、唯一の前期の遺物が出土した遺跡でもある。

参考文献

池田中学校地歴部　『原始・古代の池田』1985年

池田市　『新修　池田市史』第1巻　1997年

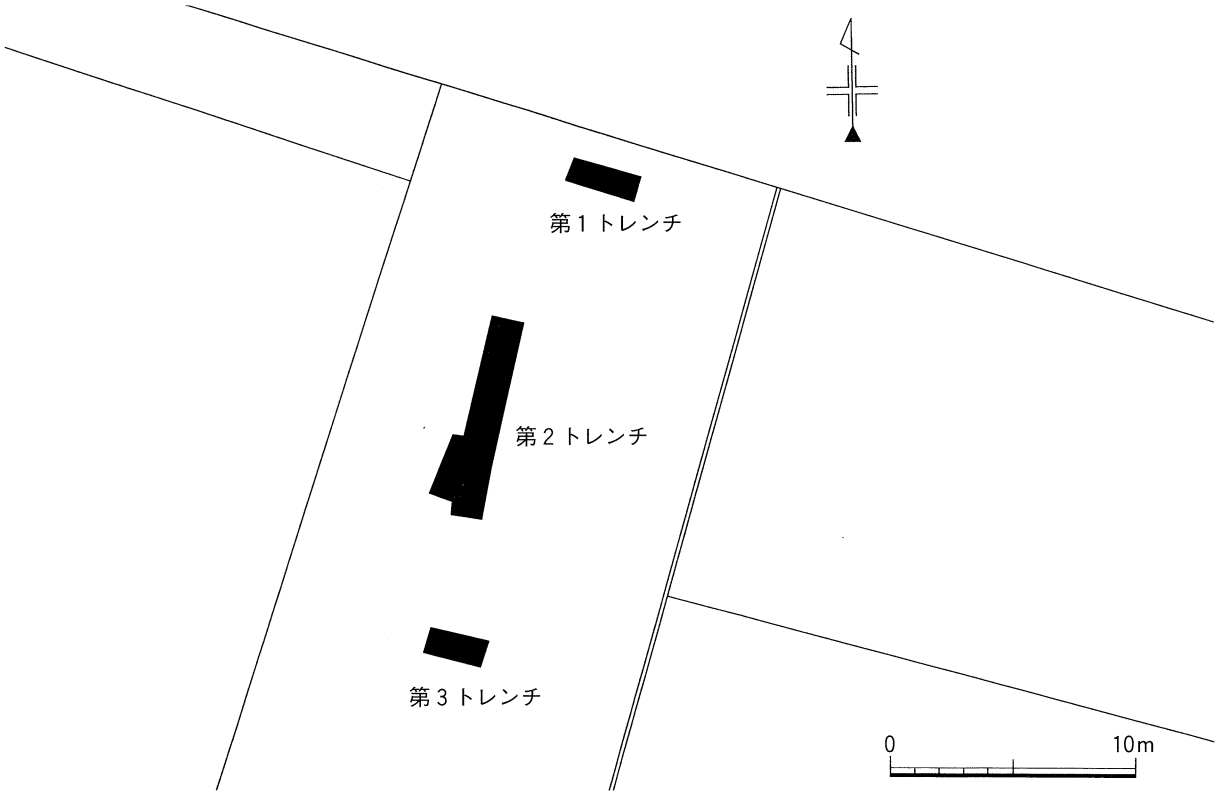
調査の概要

中川原町４１４－６、－７において、個人住宅建築に先立ち実施した調査である。擁壁基礎を対象にトレンチ３基（北側―第１トレンチ、中央―第２トレンチ、南側―第３トレンチ）を設定し、調査を実施した。調査面積は９㎡である。

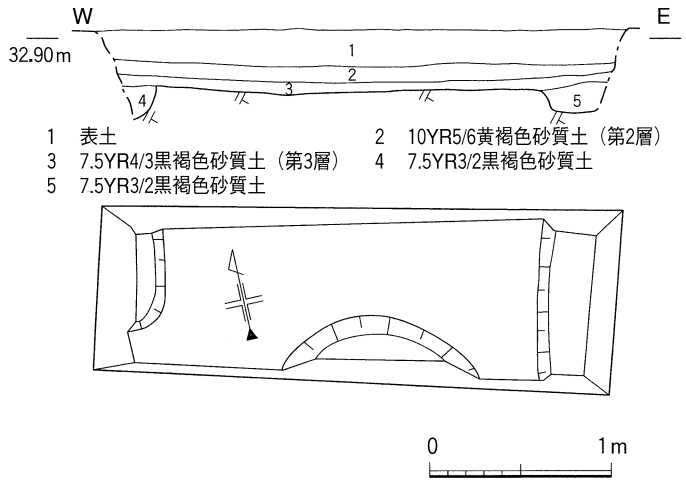
基本層序は各トレンチとも第１層が耕土および床土、第２層は黄褐灰色砂質土、第３層は黄褐灰色砂質土、第４層は黄橙色砂質シルトの地山である。第２トレンチでは第３層の下層に黒褐色砂質土がある。

第26図　木部遺跡周辺

第27図　調査地位置図



第28図　トレンチ位置図



第29図　第１トレンチ平断面図

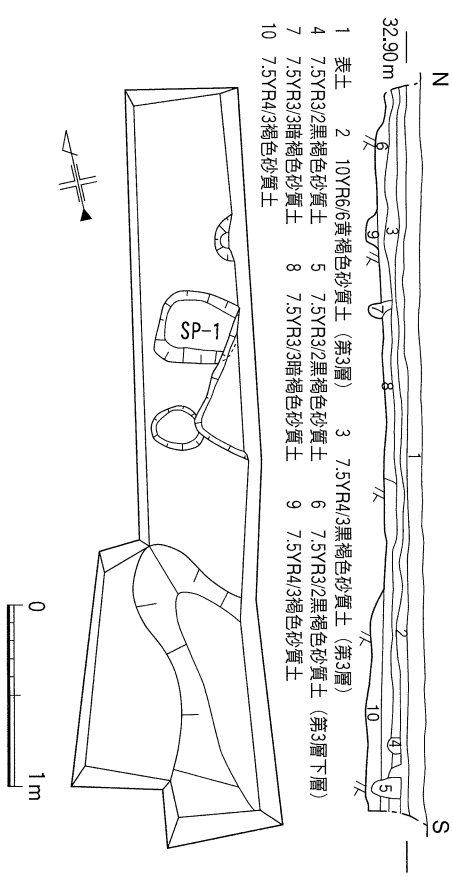
第１トレンチ

調査区北に設定したトレンチで調査面積は３㎡である。調査の結果、土抗等を検出した。

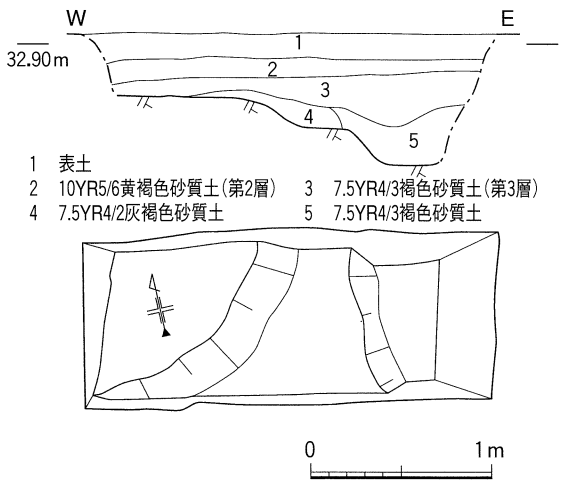
第２トレンチ

調査地西側に設定したトレンチで、調査面積は５㎡である。土抗、柱穴、東に向かって広がる落ち込みを検出した。

ＳＰ－１は、ほぼ方形の柱穴で、本調査では掘立柱建



第30図　第２トレンチ平断面図



第31図　第３トレンチ平・断面図

物の復元はできなかったが、調査地周辺に広がっている可能性がある。

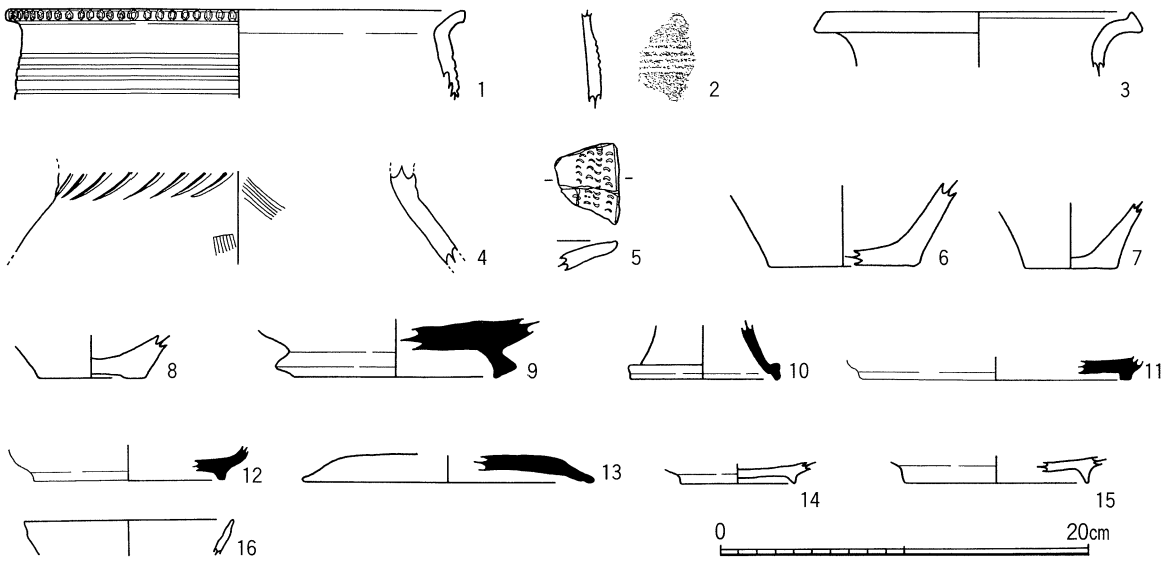
第３トレンチ

調査地南に設定したトレンチで調査面積は２㎡である。東に向かって広がる落ち込みを検出した。

その落ち込みは、第２トレンチと同じ広がりと考えられ、調査地中央から東側は旧地形に伴う落ち込みが広がる。

出土遺物

調査で縄文から中世にいたる遺物が出土した



第32図　出土遺物実測図

が、ほとんどが小片のため、図化できたものは少なかった。

１・２とも表土採取の弥生時代前期の甕である。１は第３トレンチからの残土採集で、口唇部全体に刻目をもち、「く」の字に外反する。体部は４条の沈線があり、胎土は直径３ｍｍ以下の小石を多く含む。色は黒褐色である。２は第２トレンチからの残土採集で、口縁下部で４条の沈線があり、胎土は直径３ｍｍ以下の小石を多く含む。色は黒褐色である。３は第３トレンチからの表土採取で、弥生時代中期の土器の口縁部である。４は第２トレンチの第３層下層より出土した弥生土器の頸部で、ヘラによる刻み目がある。５は第２トレンチの第２・３層より出土した弥生土器の口縁部で、内面に三日月形の押文が４列並び、端より２列目だけが逆向きである。６～８は弥生土器の底部で、７は第３トレンチからの表土採集、６・８は第２トレンチ第２・３層から出土した。

９～１２は須恵器の脚部・高台部で、９は第１トレンチ第２・３層、１０は第３トレンチからの表土採取、１１は第１トレンチからの表土採集、１２は第１トレンチ第２層から出土した。

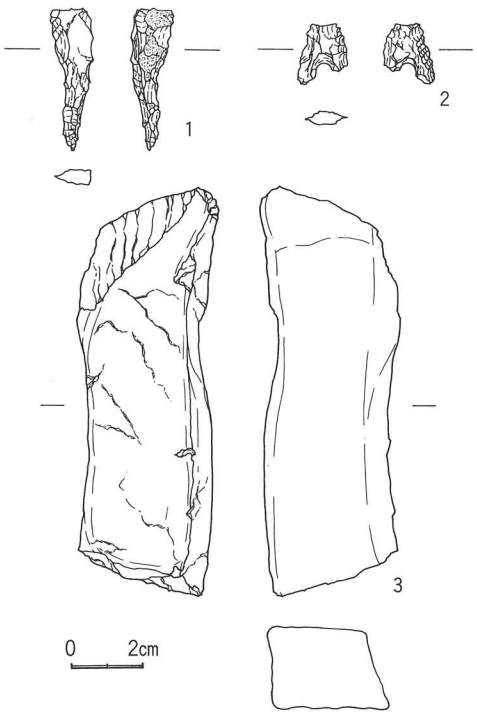
１３は須恵器蓋で第２トレンチ第３層下層から出土した。

１４・１５は黒色土器Ａ類の高台部で、１４は第２トレンチ第２層、１５は第３層下層から出土した。１６は第２トレンチ第３層下層から出土した瓦器椀の口縁部である。

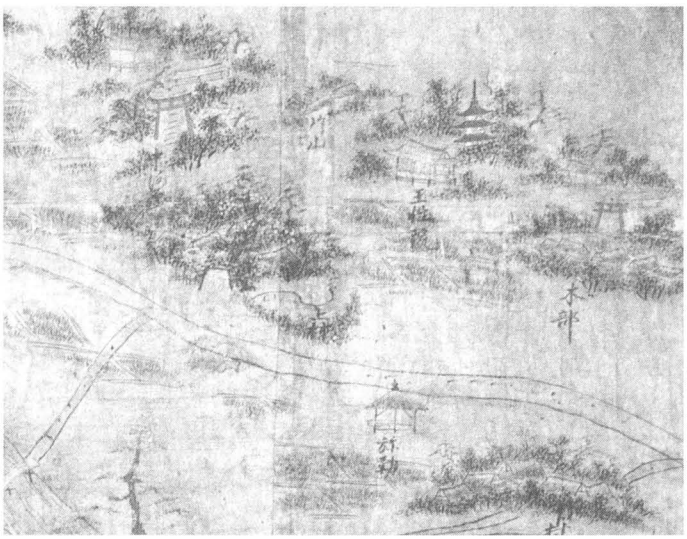
石製品は第２トレンチより検出した。１は地山直上から出土したサヌカイト製の石錐で先端は欠損する。２は落ち込みから出土したサヌカイト製の石鏃で、風化が著しい。３は砂岩系の石材の砥石で落ち込みから出土した。

調査によって、弥生時代前期から中世に至る遺物が出土した。弥生時代前期に関する遺物は池田市内では木部遺跡だけである。小片であるが、貴重な資料である。また、弥生時代中期の土器も出土しており、弥生時代の集落の継続がわかる。

その後の弥生時代後期から古墳時代前期・中期の遺物は見つからず、古墳時代後期の遺物は小片のみである。



第34図　石器実測図



第34図　細川荘大絵図（木部付近）

奈良時代から中世の遺物は一定量見つかった。中世後期頃に描かれた細川荘大絵図（池田市立歴史民俗資料館蔵）をみると、木部あたりに寺や集落の表記があり、周辺に集落が存在した可能性がある。

Ⅴ　神田北遺跡第１４次調査

はじめに

神田北遺跡は池田市神田１・２丁目、八王子１丁目一帯にひろがる縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

当遺跡は昭和５０年に石鏃の発見により周知される。同年、発掘調査が行われ、縄文時代の石鏃、弥生時代後期の土杭や須恵器等が見つかっている。

その後のマンション・住宅建築等に伴う事前の発掘調査により、弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良時代の掘立柱建物、溝、中世の掘立柱建物などが見つかり、徐々にではあるが遺跡の概要が判明しつつある。また、平成１１年の大阪府教育委員会による調査では、国府型ナイフ型石器が見つかっており、旧石器時代まで溯る遺跡である。

また、周辺の調査として、神田北遺跡より北に位置する禅城寺遺跡では、飛鳥時代の竪穴住居跡が見つかっている。

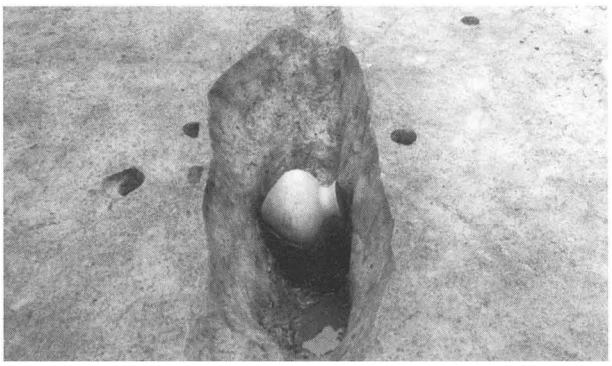
参考文献

大阪府教育委員会　『禅城寺・宇保・神田北遺跡』2002

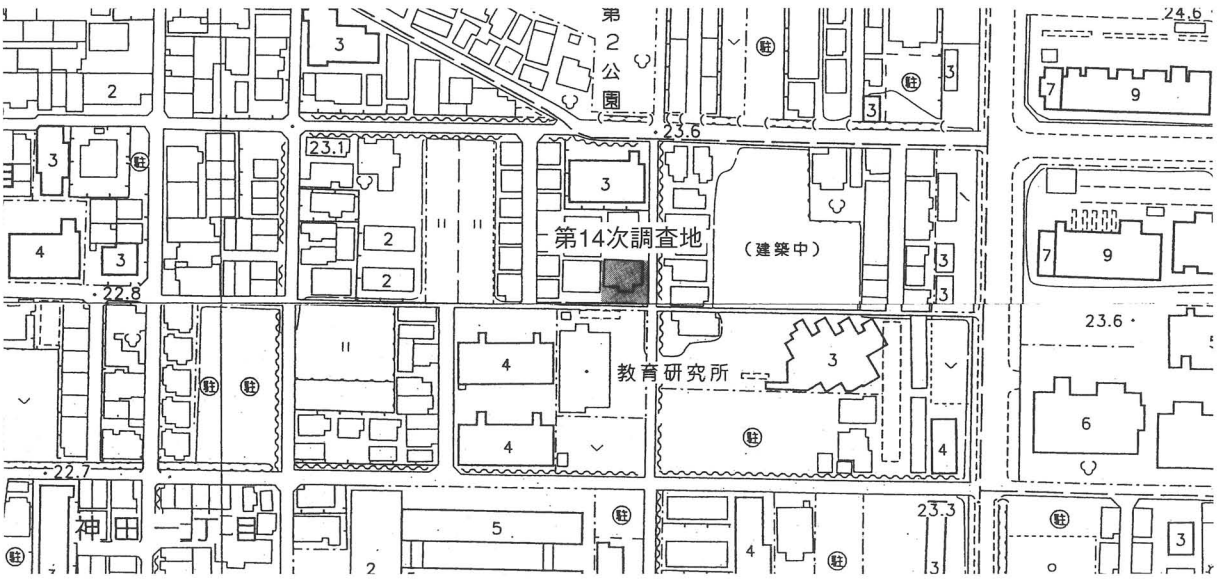
調査の概要

調査は神田１－１３３０－５において、個人住宅建築に先立ち実施した調査である。調査地中央にトレンチを設定し調査を実施した。調査面積は８㎡である。

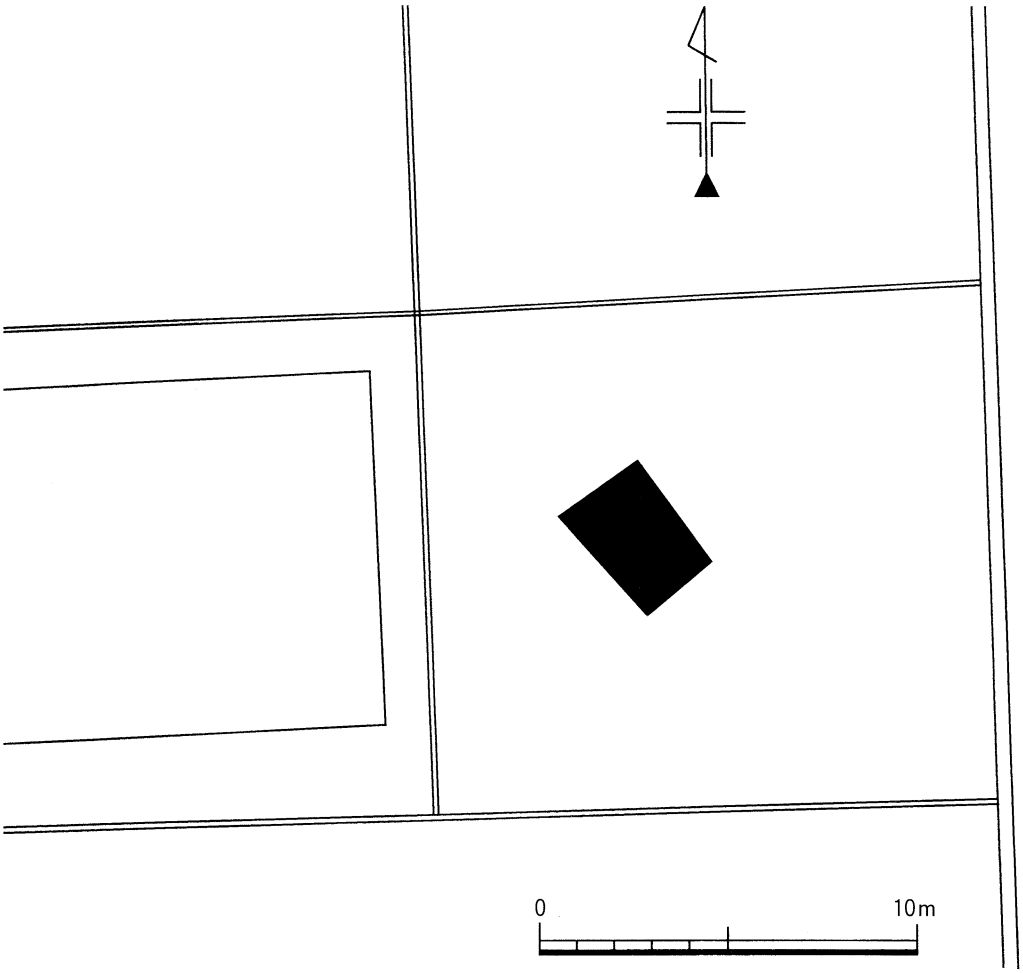
層序は第１層が盛土、第２層は灰色粘土、第３層は黒色粘土、第４層は明灰褐色粘土の地山である。



第35図　神田北遺跡第11次調査

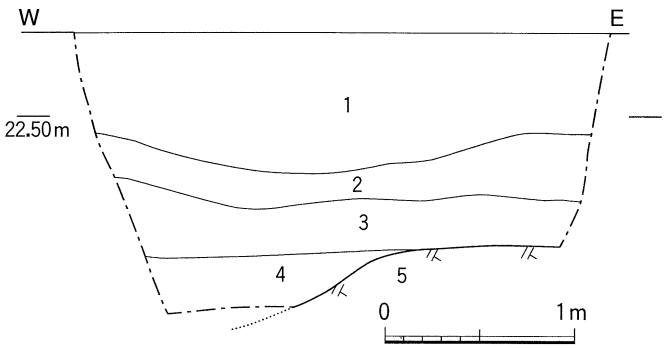


第36図　調査地位置図



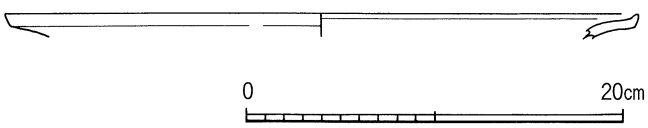
第37図　トレンチ位置図

地山上から南西に向かって、調査区外に広がる落ち込みを検出し、埋土から土師器片が出土した。調査地は第２層から下層は水分が多い粘土で構成されるため、低湿地だったと考えられる。



1　盛土　　2　10Y4/1灰色粘土
3　7.5YR1.7/1黒色粘土 φ3㎝の礫含む　　4　7.5YR3/1黒褐色粘土
5　7.5YR7/2明褐灰色粘土（地山）

第38図　トレンチ南東壁断面図



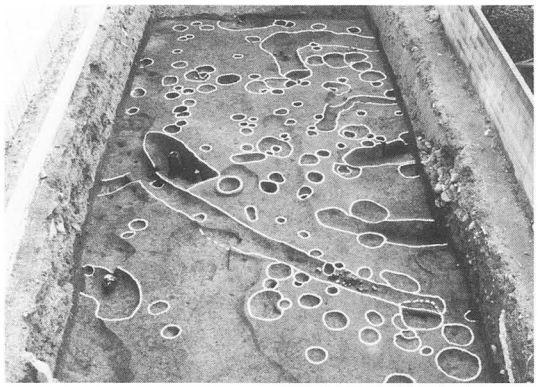
第39図　出土遺物実測図

Ⅵ　宮の前遺跡調査

はじめに

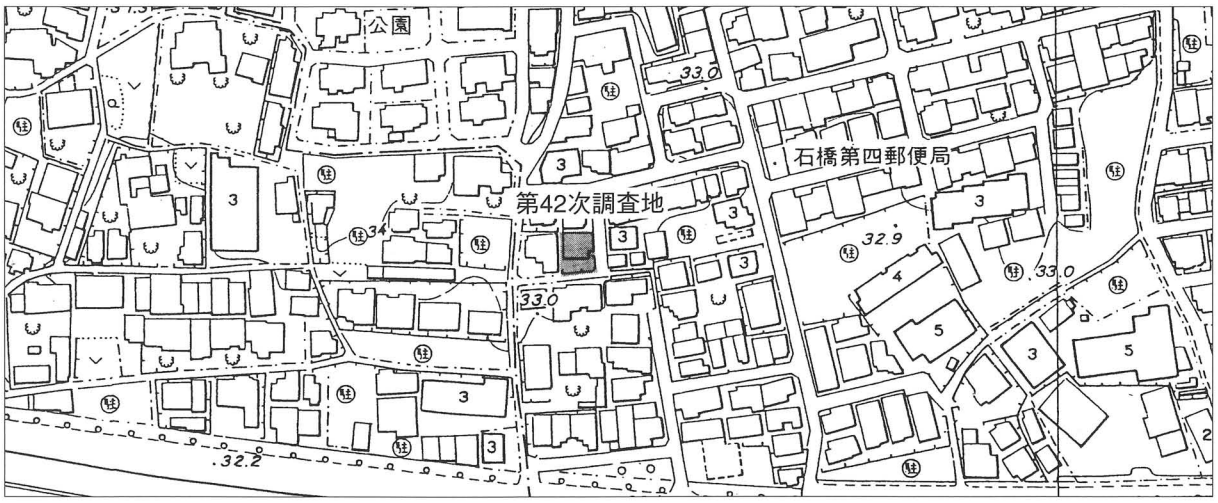
宮の前遺跡は池田市石橋４丁目、住吉１・２丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30ｍ前後の洪積台地に立地する。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10ｍの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の竪穴住居が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物が検出された螢池東遺跡、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡がある。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されたことにより、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居、古墳等が検出された。特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物、井戸、平安時代の掘立柱建物等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。



第40図　宮の前遺跡第26次調査

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会によるマンション等の開発に伴う事前調査で、遺跡の範囲は東西700ｍ、南北900ｍと拡大している。昭和61年度の大阪府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会よる調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡



第41図　調査地位置図

が旧石器時代までさかのぼることが判明している。

参考文献

『宮之前遺跡発掘調査概報』　宮之前遺跡調査会　1970年

『蛍池北遺跡（宮の前遺跡）』　豊中市教育委員会　1995年

『新修　池田市史』第1巻　池田市　1997年

宮の前遺跡４２次発掘調査

調査の概要

石橋４丁目１２４－３において、個人住宅建築に伴う調査で、土層観察を主眼に置き、南北方向に細長い３本のトレンチ（西側－第１トレンチ、中央－第２トレンチ、東側－第３トレンチ）を設定し実施した。調査面積は２４㎡である。

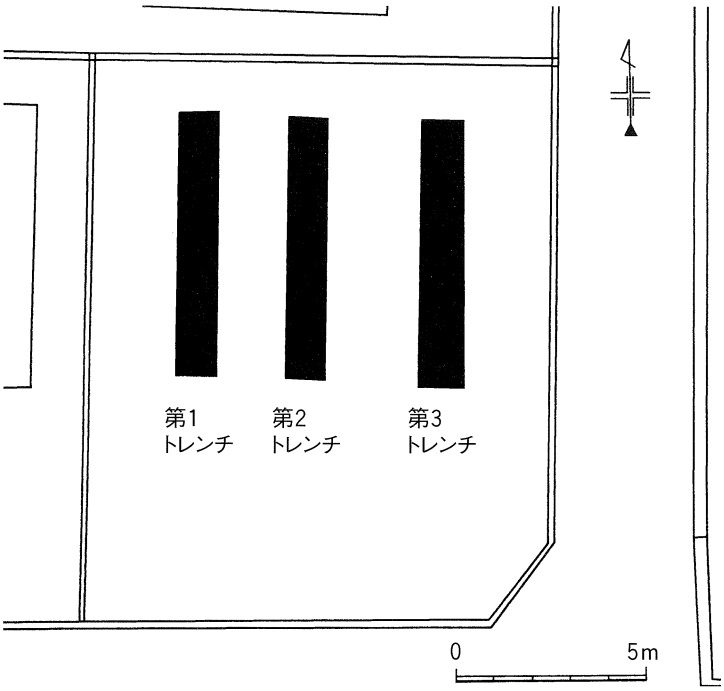
層序は、３本のトレンチとも同じで、第１層が盛土、第２層が黒褐色粘質土、第３層黄褐色粘質土の地山である。

調査の結果、第1トレンチ南側より南へ向かう落ち込み、第２トレンチ中央より土抗を検出した。

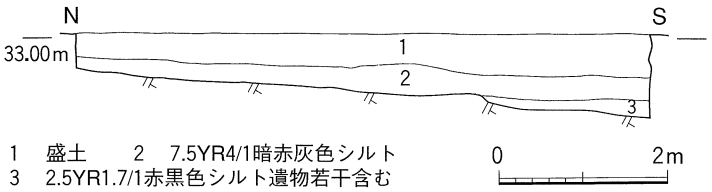
本調査地は宮の前遺跡が位置する台地の中間地にあたり、現状でも南に緩やかに傾斜している。第１トレンチの落ち込みは、南に傾斜する旧地形をあらわしている。

第２トレンチの土坑の詳細は不明である。埋土より弥生土器の底部が出土した。

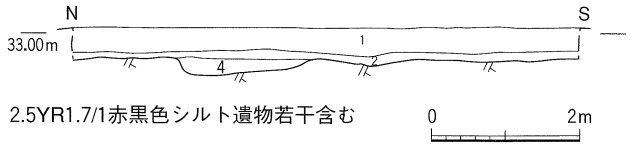
１・２とも弥生時代中期の土器底部である。



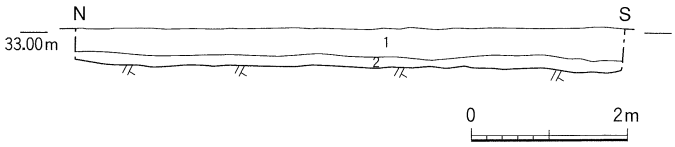
第42図　トレンチ位置図



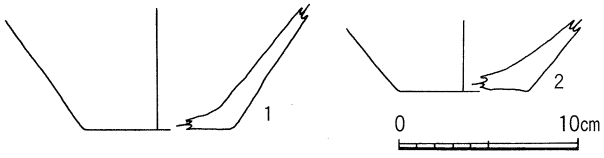
第43図　第１トレンチ東壁断面図



第44図　第２トレンチ東壁断面図



第45図　第３トレンチ東壁断面図



第46図　出土遺物実測図

1）池田城跡第51次調査　第１トレンチ全景（南西から）

2）池田城跡第51次調査　第２トレンチ全景（西から）

1）池田城跡第52次調査　トレンチ全景（北から）

2）禅城寺遺跡第７次調査　第１トレンチ全景（北から）

1）禅城寺遺跡第７次調査　第２トレンチ全景（北東から）

2）禅城寺遺跡第８次調査　トレンチ全景（北から）

1）禅城寺遺跡第８次調査　竪穴住居跡（東から）

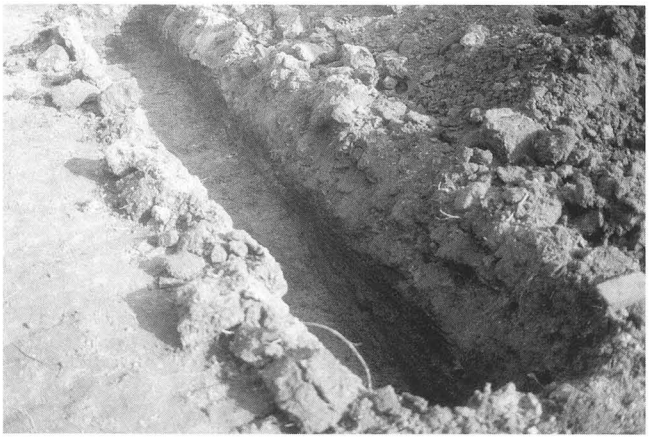
2）禅城寺遺跡第８次調査　竪穴住居跡（東から）

1）木部遺跡第１次調査　第１トレンチ全景（北西から）

2）木部遺跡第１次調査　第２トレンチ全景（北西から）

1）木部遺跡第１次調査　第３トレンチ全景（東から）

2）神田北遺跡第14次調査　トレンチ全景（北から）

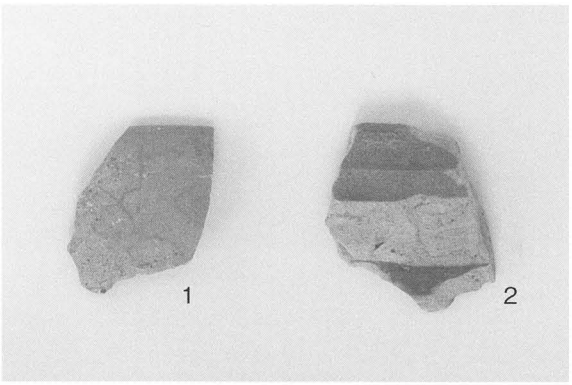


1）宮の前遺跡第42次調査　第１トレンチ全景（南西から）

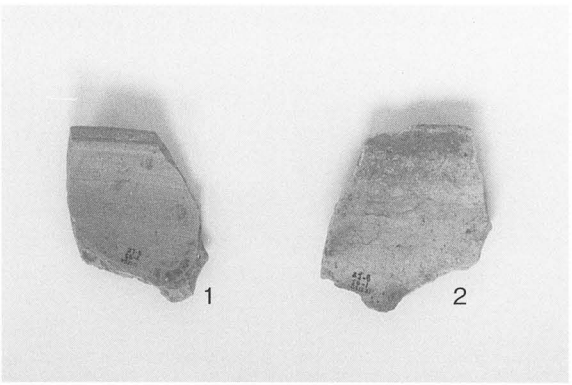
2）宮の前遺跡第42次調査　第２トレンチ全景（南東から）

3）宮の前遺跡第42次調査　第３トレンチ全景（南東から）

1）禅城寺遺跡第７次調査　出土遺物



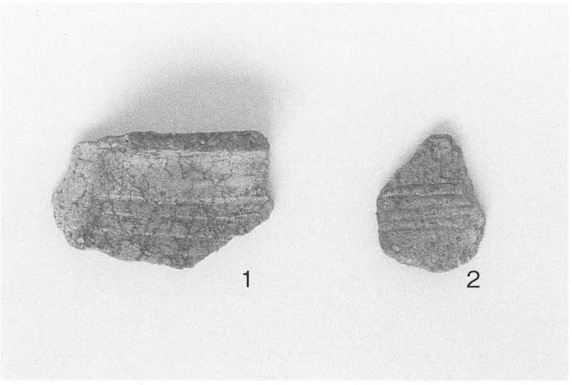
2）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物１



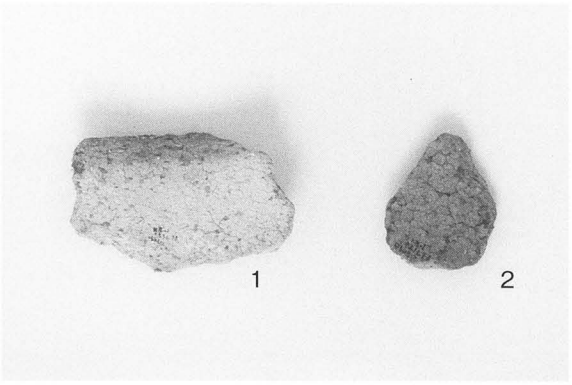
3）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物１　裏

4）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物２

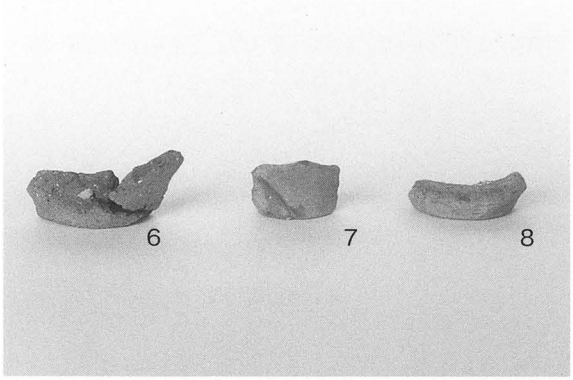
5）禅城寺遺跡第８次調査　出土遺物２　裏



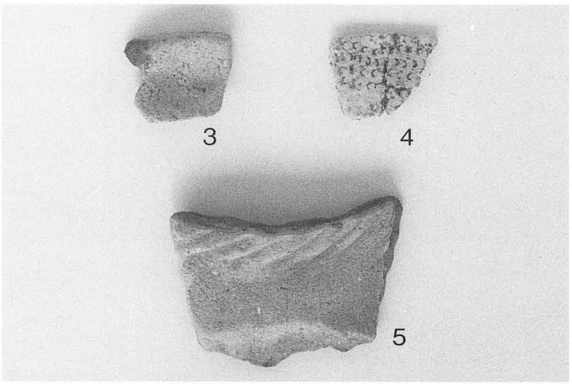
6）木部遺跡第１次調査　出土遺物１



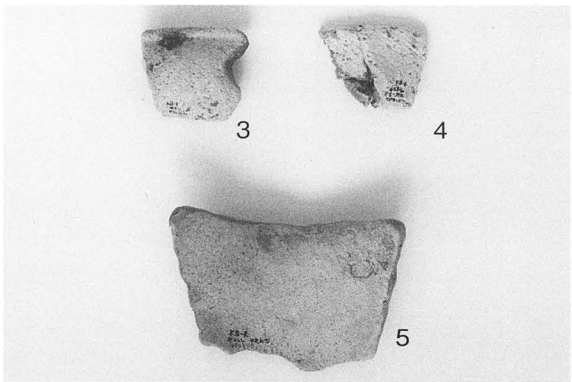
7）木部遺跡第１次調査　出土遺物１　裏



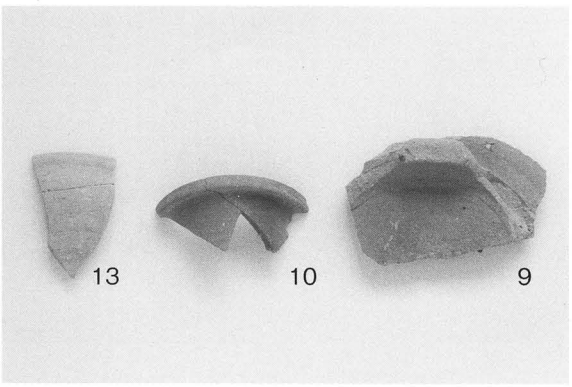
1）木部遺跡第１次調査　出土遺物２



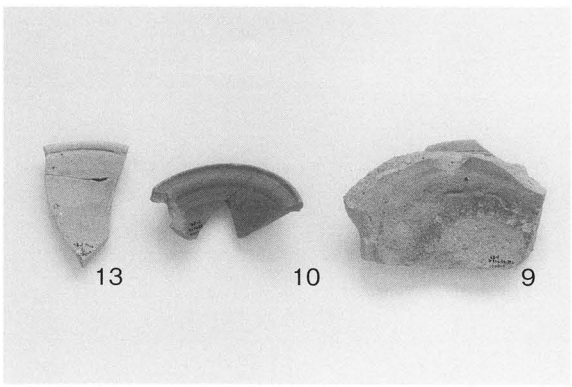
2）木部遺跡第１次調査　出土遺物３



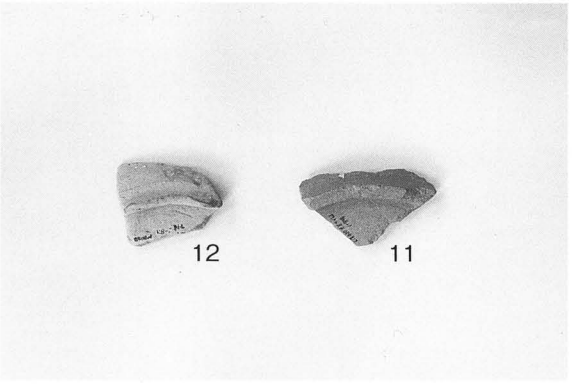
3）木部遺跡第１次調査　出土遺物3　裏



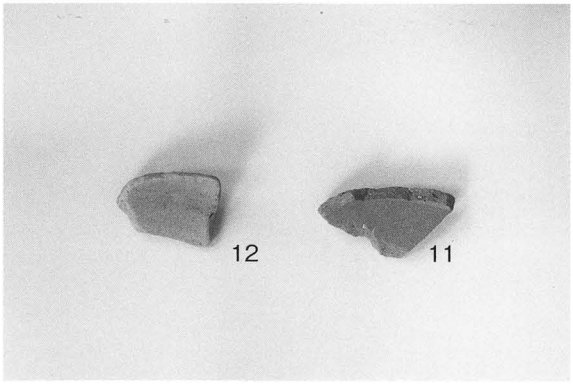
4）木部遺跡第１次調査　出土遺物４



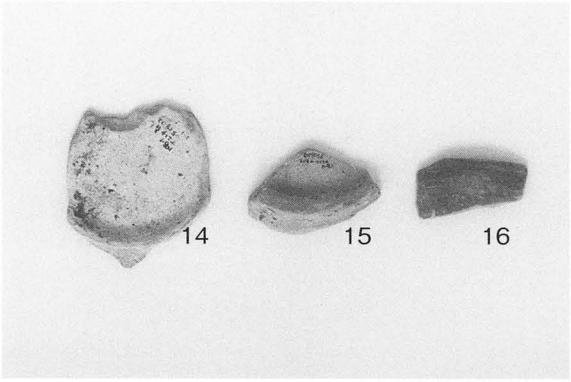
5）木部遺跡第１次調査　出土遺物４　裏



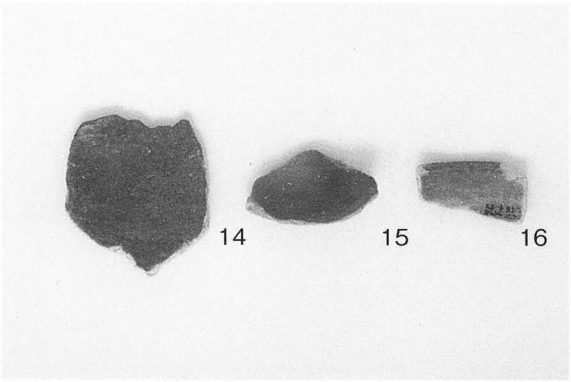
6）木部遺跡第１次調査　出土遺物５



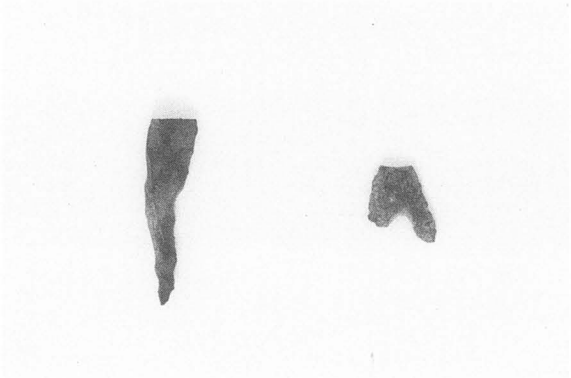
7）木部遺跡第１次調査　出土遺物５　裏



1）木部遺跡第１次調査　出土遺物6



2）木部遺跡第１次調査　出土遺物６　裏

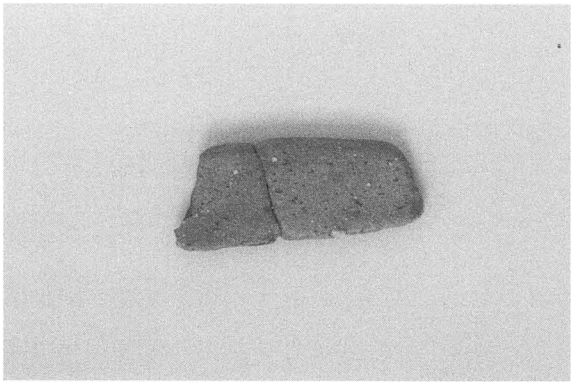


3）木部遺跡第１次調査　出土遺物７

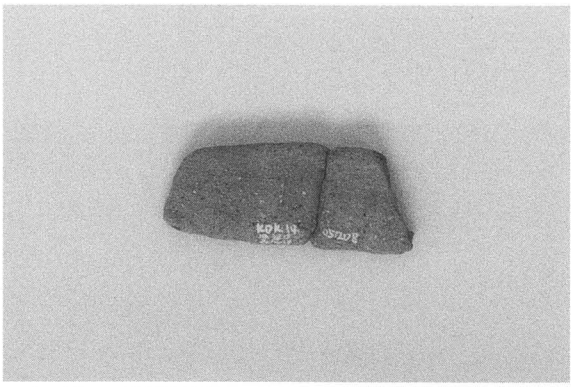
4）木部遺跡第１次調査　出土遺物７　裏

5）木部遺跡第１次調査　出土遺物８

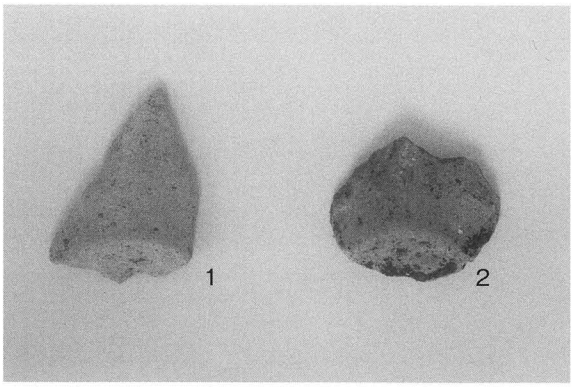
6）木部遺跡第１次調査　出土遺物８　裏



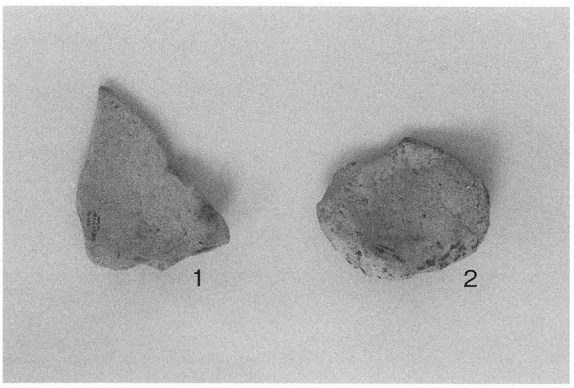
1）神田北遺跡第14次調査　出土遺物



2）神田北遺跡第14次調査　出土遺物　裏



3）宮の前遺跡第42次調査　出土遺物



4）宮の前遺跡第42次調査　出土遺物　裏

報　告　書　抄　録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第３２集
巻次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	３２
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563-8666　大阪府池田市城南１丁目１番１号　TEL072-752-1111
発行年月日	２００６年３月３１日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いけだじょうせき 池田城跡第51次	たていしちょう 建石町1978-6	272043	—	34度 49分 32秒	135度 25分 45秒	050603 ～ 050617	6㎡	個人住宅建設のための事前調査
いけだじょうせき 池田城跡第52次	たていしちょう 建石町2012-2他	〃	—	34度 49分 25秒	135度 25分 50秒	051205 ～ 051216	6㎡	建売住宅建設のための事前調査
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第７次	うほちょう 宇保町267	〃	—	34度 49分 02秒	135度 25分 48秒	050725 ～ 050727	6㎡	個人住宅建設のための事前調査
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第８次	うほちょう 宇保町274-7	〃	—	34度 49分 03秒	135度 25分 48秒	051219 ～ 051222	6㎡	個人住宅建設のための事前調査
きのべいせき 木部遺跡第１次	なかがわらちょう 中川原町414-6,7	〃	—	34度 50分 22秒	135度 25分 38秒	050801 ～ 050816	9㎡	個人住宅建築に伴う事前調査
こうだきたいせき 神田北遺跡第14次	こうだ 神田1-1330-5	〃	—	34度 48分 49秒	135度 25分 48秒	051208 ～ 051208	8㎡	個人住宅建築に伴う事前調査
みやのまえいせき 宮の前遺跡第42次	いしばし 石橋4-124-3	〃	—	34度 48分 03秒	135度 26分 39秒	060112 ～ 060112	24㎡	個人住宅建築に伴う事前調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いけだじょうせき 池田城跡第51次	城館跡	中世	堀跡	—	
いけだじょうせき 池田城跡第52次	城館跡	中世	堀跡	—	
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第７次	集落跡	中世	柱穴	土師器等	
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第８次	集落跡	中世	竪穴住居跡	土師器等	
きのべいせき 木部遺跡第１次	集落跡	弥生～中世	柱穴	弥生土器等	
こうだきたいせき 神田北遺跡第14次	集落跡	弥生～中世	落ち込み	土師器	
みやのまえいせき 宮の前遺跡第42次	集落跡	弥生～中世	落ち込み	弥生土器	

池田市文化財調査報告第32集

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

２００５年度

２００６年３月

発行　池田市教育委員会

池田市城南１丁目１番１号

編集　社会教育課　文化財担当

印刷　株式会社　河西喜昇堂